

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【家庭科/家庭基礎】

#### 1. 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

〇〇高校1年生

全体的に積極的な生徒が多く、自ら考えて発表ができる集団である。発言をしない生徒も意見や感想をしっかりと持て、授業の内容に積極的にとらえることができる。4月に高校へ入学し環境の変化を楽しみ、これからの高校生活を模索する時期であるため、今一度自分の生活環境を客観的に観察し、生活課題を解決して欲しい。

#### 2. 単元名「衣生活 衣生活に必要な知識や技術を身に着ける」(全11時間)

#### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける。
思考力、判断力、表現力等	被服材料、被服構成及び被服衛生について適切な選択と取り扱いができるようになる。
学びに向かう力、人間性等	被服材料、被服構成及び被服衛生について自分の考えや意見を持ち、積極的に共有できる。

#### 4. 本時の目標

※「5」を単元で作成する場合は省略可能です。

#### 5. 授業展開【(本時)・単元】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

##### 解決したい課題や問い

ブレザーの生地はどんな機能があるか？

##### 考えるための材料

授業プリント、教科書・資料集、布見本、折り紙で作る三原組織

##### 想定される活動

三原組織とは何かを理解し、それぞれの布の特徴を理解する。

##### 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- 1、5人グループ。時間を区切り、目標時間を伝える。できない生徒にわかる生徒が教えるように指示を出す。
- 2、グループ内で平織、斜文織、朱子織を分担して折り紙で織る。作業ができていく生徒は周りにフォローするよう指示を出す。見本がきれいだから挑戦してみよう。今自分が着ている制服の生地は何織りだろうか。
- 3、グループ内で織った三原組織を比べてみる（見た目、さわり心地等）模様が生地によって違うため、他のアイテムも確認してみたい。薄い生地でもすぐ破れないのはなぜだろう。織り方に秘密があるのではないか。
- 4、教科書の三原組織の特徴と使用例を確認する。予想通り一番丈夫なのは平織だった。朱子織は生地が滑りやすい理由から裏地に使われていることに気が付く。
- 5、まとめ：これからどのように自分の生活に生かしたいかを記入しプリントを提出

##### 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

あまり気にしなかった洋服の生地を観察し理解することで、自身の服の選択時に何か必要なのか判断することができる。